

江川太郎左衛門(英龍・坦庵) 蕨山代官。公平無私の精神で天領支配し、砲術伝授・海防対策などに先駆。開明派官僚代表。

えがわたるうさえもん
宣長没・・・1801 =

伊豆国蕨山に屋敷をもち、代々太郎左衛門を名のる、江戸幕府の世襲代官の子に生まれる。
祖先は、大和国興之郷宇野に住した清和源氏源經基の孫、宇野頼親といわれる。1750年頃の31代の時に蕨山屋敷を本拠に伊豆、相模を中心に周辺の国々の天領を管轄する蕨山代官となった。
借財1000両が調達できなければ断絶という危機に、手代望月鴻助が紀州家に行き、嘆願書を前に自殺して、1000両下賜を得たという事件があり、

幼い頃からこの話を聞かされて、借財完済と家運興隆を一身に背負う決意を持った。

・・・1810 = 9歳 :

水野忠成老中1818 = 17歳 : 江戸に出て、神道無念流岡田吉利のもとで剣術修業し、齋藤弥九郎と知り合う。

群書類従完結1819 = 18歳 :

・・・1820 = 19歳 : 免許皆伝となったのに加え、

画を谷文晁に、書を市河米庵に、詩を大窪詩仏に、経書を頼杏坪に学んで、若くして一流文化人となる。

シノヰ 卜鳴滝塾1824 = 23歳 : 代官見習となり、

シノヰ 卜事件・1828 = 27歳 :

富籤流行・・・1830 = 29歳 : 「忍」の一字を遺言に、母が死去。

富嶽三十六景1831 = 30歳 : 江戸屋敷で筆頭手代の長子の乱心で、即死7人、重傷5人という事件が起ったが、「忍」を念頭に耐え、柔軟性を持つに至る。

滑稽+人情本 1835 = 34歳 : *代官を襲い、36代となる。

・・・1836 = 35歳 : 天保の大飢饉のなか、甲斐で郡内騒動が起きると、その余波を防ぐべく領内を巡視し、綱紀肅正を断行、

大塩平八郎乱1837 = 36歳 : 大塩平八郎の乱が起こると、その原因を探るべく、変装して現地視察、

適塾オープン・ 1838 = 37歳 : 都留郡が支配地に編入された際にも農民らの支持を得る一方、渡辺華山に近いことから鳥居耀蔵と対立、

蛭社の獄・・・1839 = 38歳 : 蛭社の獄を惹起する一因ともなる。

天保改革始・ 1841 = 40歳 : *改革派幕吏として水野忠邦の天保改革に参画、代官役所の綱紀を肅正し、百姓一揆を鎮圧する一方、幕政については一貫して西洋軍制による兵制の改革を推進。

天保改革弾圧1842 = 41歳 : 高島流砲術の採用が認められるや、

順天堂始・・・1843 = 42歳 : 門人第1号となり、蕨山に塾を開いて幕臣、武士を問わず多数の人材を育成したが、忠邦の失脚で退く。

阿部正弘首座1845 = 44歳 :

孝明天皇・・・1846 = 45歳 :

北斎没・・・1849 = 48歳 : イギリス軍艦マリナー号が浦賀に入港して居座った際に、交渉に当って直ちに退去させる。この年、長崎で日本初の本格的種痘が行われ、その痘苗が江戸に到着すると、

国定忠治磔・ 1850 = 49歳 : 伊東玄朴に長男・長女の続いて手代の子らにも種痘させ、ことごとく成功して、領内全域に普及させる。

ペリー来航・ 1853 = 52歳 : ペリー来航で幕政に復帰すると、

開国開港・・・1854 = 53歳 : *土佐藩から中浜万次郎を召し出して日米和親条約締結に当らせる一方、国防のため、台場の設置、蕨山反射炉の建設等にあたったが、

安政大地震・ 1855 = 54歳 : *事業中途に発病、大槻俊斎・伊東玄朴ら蘭方医が総動員されるも、没し、幕府は衝撃を受けた。彼の構想は、養成した門弟に受けつがれ、武器製作、農兵制など、近代兵制に先駆すると評価される。